

高齢者と障害者の自立のための

第43回国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2016

会 期：2016（平成28）年10月12日（水）～14日（金）

会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）

出展社数：527社・団体（日本457社・団体、海外70社）※見込み

開場時間：午前10時～午後5時 入 場 料：無料（登録制：当日または事前）

主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

【開催内容】（予定）

第43回目を迎える国際福祉機器展 H.C.R.2016 では、高齢者や障害者の自立と社会参加の促進、家庭や福祉施設での介護の質の向上を目的に、杖・車いす・福祉車両、入浴・トイレ、住宅改造機材などの福祉機器、高齢者むけ食品や衣類など日常生活を支えるさまざまな生活用品を総合展示します。

また、福祉・介護・リハビリなどに役立つ最新情報を以下のようなシンポジウムやセミナー、特別企画などの多彩なイベントをつうじて、福祉関係者、企業関係者、そして一般の方々に提供いたします。

①福祉機器約20,000点を総合展示 **WEBにて来場者登録の受付を開始しました！**

②国際シンポジウムを開催（10月13日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

③H.C.R.セミナーを開催（10月12～14日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

福祉職から一般、福祉利用者、家族までをそれぞれ対象として、保健・福祉・介護をテーマに連日開催。

④出展社によるプレゼンテーション

⑤H.C.R.特別企画

(1) アルテク講座2016 ～身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）で創る豊かで楽しい生活
(IT機器の福祉的活用講座)

携帯電話やスマートフォンなど身の回りにおけるテクノロジーの福祉的な利用方法についての解説・実演。

(2) 高齢者・障害者の生活支援用品コーナー

『マイサイズ！あなたに合わせたモノ展』を開催。関連グッズを展示・紹介。

(3) 障害児のための「子ども広場」：

子ども用機器の展示、機器・療育・住宅改造などの相談、保育士が常駐するひとやすみコーナーなど。

(4) 福祉機器開発最前線

現在開発中の製品や新発表の福祉機器、介護ロボットなどのデモンストレーション・集中展示

(5) ふくしの相談コーナー

福祉機器や自助具などの相談コーナーを設置。

(6) 被災地応援コーナー

災害に見舞われ、復興に取り組みながら製造・生産活動に取り組むセルフ（障害者就労支援施設）の製品を販売。

その他にも、多彩なプログラムを実施予定。

I 国際シンポジウム

テーマ「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために

～ノーマライゼーションのこれまでとこれから【プログラムNo.1】**手話通訳あり**

わが国では「障害者の権利に関する条約」の締結を受けた「障害者差別解消法」の制定や「障害者雇用促進法」の改正のほか、2020年の国内でのパラリンピック大会の開催が決定するなど、障害者の権利擁護と自立や社会参加の一層の促進に向けた動きがさまざまな形で進みつつあります。

障害者の権利を擁護し、自立と社会参加を進めていくためには、日常生活上のあらゆる場面におけるバリアを取り除き、包括するといった視点から、生活場面、雇用・就労、教育など、さまざまな項目にわたるあり方を検討し、整備していくことが求められますが、H.C.R.では、2007年に障害者の社会参加と就労をテーマに欧州のソーシャルファームの当時の現状と課題を考察して以来約10年が経過したことを踏まえて、ノーマライゼーション思想発祥の国であるデンマークから講師を招き、障害者の権利擁護や社会参加の促進をめぐる変化と最新の動向に関するレポートなどによるシンポジウムを開催し、わが国の今後の関連の取り組みを展望するうえでの考察の場とします。【日英同時通訳付】

○開催日時：平成28年10月13日（木）13：00～16：00

○会場：東京ビッグサイト会議棟6F

○参加者：障害者福祉に関する課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

○シンポジスト

i) デンマーク／ハナ・スティグ・アンダーセン氏：デンマーク社会福祉・内務省 障害者局長

ii) 日本／末光 茂 氏：社会福祉法人 旭川荘理事長、川崎医療福祉大学特任教授、医学博士

○チューター

近藤 純五郎 氏

：一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

○参加費：1,000円

○参加申込方法：H.C.R.Web サイト (<https://www.hcr.or.jp>) からの事前申込となります。

○定員（250名）になり次第締め切らせていただきます。

【講演要旨】

第一部 講演

(1) デンマークからのレポート（ハナ・スティグ・アンダーセン氏）

デンマークの障害者政策とデンマークにおける（そして、北欧諸国の）障害者対策について、インクルージョン（「ノーマライゼーション」）という概念に着目しながらその体系を概観する。

デンマークの障害者政策は、機会均等（イコールオポチュニティー）、連帯（ソリダリティ）、補償（コンペンセート）、部門責任（セクターアカンタビリティ）という4つの基本原則の上に成り立っている。障害者政策が目指すものは、社会的コミュニティ、労働市場、そして教育制度を含む生活のすべての場面における、インクルージョンとインデペンデントとエンパワメントである。

デンマークの法律には、個人のよりよい生活を実現し、日々快適でいられることや、クオリティオブライフ（QOL）向上などの可能性を広げることを目的に、様々な給付が設けられている。障害者に対しては、支援の必要性をみる特定個人評価基準に基づき給付が決められる。この取り組みは、個人の特殊なニーズに応えるサービスを提供するための総合的アプローチを意図してなされている。

着目している点は、個人の限界ではなく、資質と可能性である。発表の中で、具体的な事例を紹介していると思う。

最後に、早期介入と予防的措置、そして、支給とサービスの一体提供に触れながら、真にインクルーシブな社会に向けてより深く発展していくことを強調し、デンマークの視点から見た未来の障害者政策について言及する。

(2) 日本からのレポート（末光 茂氏）

ノーマライゼーション理念は、わが国の障害者医療・福祉・教育の各分野の方向性に大きく寄与してきた。

まず、「脱施設化」と「地域移行」の取り組みを、北欧4カ国と比較しながら振り返る。知的障害者を例に挙げると、地域生活を支えるグループホームは1990年代に導入され、2016年の101,000人分へ大きく整備が進んでいる。

2005年から2014年の間入所施設から地域へ移行した者は39,000人である。ところが、施設入所は2005年14万6,000人であったのが、2014年には13万2,500人へと縮小したにとどまる。地域生活を支える諸条件の不十分さから、新たな施設入所が一定の比率を占めているためであり、解決すべき課題である。

1979年の養護学校義務制により、学齢期にあるすべての児童は教育の機会に浴することができるようになった。それも分離からインクルーシブ教育へと進みつつあり、軽度知的障害のカレッジ・大学の気運も高まっている。

就労については、2013年の法定雇用率2.0%の規定を契機に、障害者雇用事業所等の整備と相まって、9.8万人の知的障害者の就労が具体化できている。

障害のある人々の音楽、芸術、スポーツ活動なども、広く国民の共感を得つつある。意思表示がほとんど見られず、呼吸管理等の常時必要な重症心身障害児者にも手厚い支援の手が差し伸べられるようになった。糸賀一雄氏の「この子らに世の光を」でなく、「この子らを世の光に」との主張は、日本独自の障害者観に根ざした支援の思想と言えよう。ただし、国民への浸透は不十分であり、障害分野で働く人材確保は厳しい。現状と今後と言及したい。

第二部 質疑応答

※ 講義要旨の詳細版を、HCR Web サイト (<https://www.hcr.or.jp>) に掲載しています。

II H.C.R.セミナー

H.C.R.2016では、わが国の保健福祉・介護・医療分野におけるさまざまな課題についての関連最新情報の提供や、福祉・介護職の資質向上をはかるための「H.C.R.セミナー」を東京ビッグサイト・会議棟及び東展示ホール内で開催します。

今年は、地域で生活されている高齢者の住まいや介護に関わる情報、介護・福祉施設のサービスの質を高めるための知識や技術などを学んでいただく講座、企業関係者を対象としたセミナーなどにより構成し、特に、介護ロボットの円滑な導入や開発の最新動向に関するプログラムを新設しました。ぜひ、ご参加ください。

○開催日：2016年10月12日(水)～14日(金)

○会場：①以下の【プログラムNo2】～【プログラムNo7】は、東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608会議室」及び7階「701-702会議室」
(※本会WEBから事前申込が必要です。また、セミナー共通資料(1部1,000円)を販売します。)

②以下の【プログラムNo8】は、東京ビッグサイト・東6ホール内「特設会場A」(自由参加、先着順)

③以下の【プログラムNo9】は、東京ビッグサイト・東3ホール内「特設会場C」(自由参加、先着順)

東京ビッグサイト・会議棟で開催するセミナー

10月12日(水)

10:30～12:00

【プログラムNo2】一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術

～ボディメカニクスの理解と活用 **要共通資料**

介護する方々にとって、腰痛は大きな問題です。

リフトなどの機器の活用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方(技術)の習得など、腰痛にならないための対応策はいくつかあります。家庭で介護をおこなう一般の方々は、これらについての基礎を理解し、それぞれの要素をうまく組み合わせて腰痛を予防していく必要があります。

とくに、ボディメカニクスは、介護時の適正な姿勢や動作を確保して、介護する方とされる方の双方にとって介護を楽にし、安定させる技術です。

本講座では、具体的な実演もまじえながら、こうした技術をわかりやすく解説します。

○主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパー

○講師：青柳 佳子 氏 浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

13:30～16:00

【プログラムNo3】福祉施設の実践事例発表 ～ 役立つ活かせる工夫とアイデア **要共通資料**

介護・障害者・児童福祉施設の現場では、スタッフが日々の利用者への援助・支援においてさまざまな創意・工夫を行うことによって、福祉サービスの改善、質的な向上がはかられています。こうした創意・工夫は、全国の福祉施設で活かせるアイデアとノウハウです。

本講座では、創意・工夫の情報を共有することで、福祉サービスの質の向上をはかることを目的として、福祉施設での実践事例、研究発表を紹介します。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

《A会場／高齢者施設における工夫事例》

司会進行：湯川 智美 氏 社会福祉法人 六親会 常務理事

《B会場／障害者施設における工夫事例》

司会進行：久木元 司 氏 社会福祉法人 常盤会 理事長

事例テーマ(予定):

- ①福祉施設における医療的支援に関わる取り組み
- ②福祉施設における災害時の危機管理・BCP、被災からの復興に関わる取り組み
- ③介護ロボットの導入事例
- ④社会福祉法人が取り組む地域公益事業
- ⑤その他、福祉施設における創意工夫の取り組み

※A と B の 2 つの会場に分割して並行開催します。

※当日受付を会場前において同日（10月12日）の12:30より先着順にて行います。

※具体的な発表事例のテーマについては、次号以降でお知らせいたします。

10月13日(木)

10:30~12:00

【プログラム№4】介護ロボットの活用で未来を拓く 手話通訳あり 要共通資料

介護ロボットの開発・普及については、政府が掲げる日本再興戦略に基づき「介護分野におけるロボット新戦略」が取りまとめられ、高齢者や障害者の自立支援、介護負担の軽減等にロボット技術を活用しようとする取り組みが、鋭意進められているところであります。

一方、近未来の介護の場面で重要な役割を担うことが予想される介護ロボットですが、その普及によって介護はどのように変化していくのか、また、円滑な定着やより効果的な活用のためにはどのような取り組みが必要なのかなどについては、介護ロボットが注目されはじめてからまだ間もないこともあり、理解が十分に進んでいるとはいえない側面もあります。

本講座では、さまざまな場面で活躍しはじめた介護ロボットの今後の可能性を探るとともに、克服すべき課題やめざすべき将来像について展望します。

○主な参加対象者：高齢者およびその家族

○講師：五島 清国 氏 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部長

10月14日(金)

10:30~12:00

【プログラム№5】介護ロボット開発の最新動向と今後の展望
～北欧のユーザー・ドリブン・イノベーションからみる普及実現に向けた取り組み

手話通訳あり 要共通資料

介護ロボットはわが国の将来の介護場面での活躍を期待されているだけでなく、政府が進める経済政策のなかでも成長産業の一つとして注目されています。

介護機器としてより有効なロボットを開発、生産、販売することはエンドユーザーや介護を行う方々の負担を軽減したり、介護従事者の不足を緩和することはもとより、わが国の経済成長や産業振興などにつながる側面もあります。

しかし、未知の要素が多いこうした機器の開発を着手することをめざす企業や組織にとっては、まず先に、最新の開発動向やより効率的な開発や生産に向けた留意点や課題などについて確認し、把握しておく必要があるといえます。

本講座では、介護ロボットの研究・開発や生産・製造に関する諸外国も含めた最新動向や、わが国における政策や支援策の動向などについて解説するとともに、より必要とされる介護ロボットの製品化を進めていくためのヒントや将来の展望などについて考察します。

- 主な参加対象者：(出展社を中心とする) 企業、行政、福祉関連団体
- 講師：植村 佳代 氏 株式会社 日本政策投資銀行 産業調査部 副調査役

10 : 30~12 : 00

【プログラム№6】 東京オリンピック・パラリンピックの理想とレガシー(遺産)

～環境と福祉の統合、社会への定着を目指して **手話通訳なし** **要共通資料**

オリンピック・パラリンピックは、人々にスポーツの感動、素晴らしさを伝えるだけでなく、環境や福祉の向上、健康な暮らし、持続可能な街づくりと言った新しい価値を創造し、後世に伝えることも求めています。

2020 東京オリンピック・パラリンピックは、障害者の社会参加を促す象徴としてのパラリンピックを通じて、環境と福祉の統合を一層普及・啓発する機会になります。そうした新しい価値を大会の遺産として引き継ぎ、定着させるためにはなにをすべきか。パラリンピックのメダリストを交えて話し合います。

①パラリンピックが後押しするソーシャルインクルージョンの進展

講師/炭谷 茂 氏： 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長、
社会福祉法人 恩賜財団済生会理事長

②障害を乗り越えて～新たに獲得した価値とは

発表者/パラリンピックのメダリストを予定

③東京オリンピック・パラリンピックで目指していること

発表者/日本オリンピック・パラリンピック組織委員会委員を予定

- 進行：社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会
- 対象者：福祉施設関係者など

※本講座の会場は、東京ビッグサイト・会議棟 7 階「701-702 会議室」になります

14 : 30~16 : 00

【プログラム№7】 福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント **手話通訳なし** **要共通資料**

近年、さまざまな感染症対策が注目されています。

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。施設を利用する高齢者や障害者、児童などの場合、感染をすれば、症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設の役職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められています。

本講座では、高齢者、障害者、児童福祉施設における日常生活に必要な感染症に関する基本的知識、予防と発症後の対応策、施設などの現場で留意しておきたいポイントや今年の感染症の動向について専門の講師から学びます。福祉・介護職には必見の講座です。

- 主な参加対象者：福祉施設関係職員者など
- 講師：小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

東京ビッグサイト・東展示ホールで開催するセミナー

特設会場 A (東 6 ホール内)

【プログラムNo.8】 はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー 手話通訳あり

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類し、3日間にわたりセミナーを開催します。

3日間のセミナーの概要は以下のとおりです(時間割、講師名などの詳細は、本会WEBよりご確認ください)。

《10月12日(水)・住宅改修編》

①トイレ・排泄用品 ②住宅改修 ③入浴機器

《10月13日(木)・基本動作編》

④ベッド ⑤リフト等移乗用品 ⑥杖・歩行器等補助用品 ⑦車いす

《10月14日(金)・自立支援編》

⑧コミュニケーション機器 ⑨福祉車両 ⑩自助具

○主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など

○定員：200名(※自由参加、先着順にご案内いたします。)

※副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を本セミナー会場にて販売しています。
1冊100円です。

特設会場 C (東 3 ホール内)

【プログラムNo.9】 高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ [高齢者の料理講座] 手話通訳あり

高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも、大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などですませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単に、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる食事のつくり方と実演にてご紹介します。

テキストでは、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明しています。

○主な参加対象者：高齢者及びその家族、ホームヘルパー、在宅サービス事業者など

○講師：虎の門病院栄養部

○定員：60名(※自由参加、先着順にご案内します。)

*「高齢者の料理講座」の会場(東3ホール「特設会場C」)では、2013年から2016年までの過去の本講座でご紹介したレシピを1冊にまとめた冊子を一部700円で販売する予定です。

H.C.R.2016 新製品の紹介／福祉機器ガイドブックより

㈱いすら 移動式リフト EL-570 【移動機器】

価格：495,000 円（非課税）

～「方向転換」「着座」がスムーズ～

狭い居室での広報転換や安定した着座など、リフト介助の難しさを大きく軽減し、初心者でも安心して使用できるスタイリッシュな移動式リフトです。

床からのすくい取りもできますから、さまざまな場面で使用できます。介助者の腰痛予防に最適です。

㈱今仙技術研究所 EMC-260・270 型 【移動機器】

価格：お問い合わせください

～安全性・快適性を兼ねそろえた普通型電動車いす～

前輪キャスタ後輪直接駆動方式。走行モードがより詳細に設定可能になり、好みの走行フィーリングが楽しめます。

EMC-260 型は最高速度 4.5km/h、EMC-270 型は最高速度 6.0km/h です。

近鉄スマイルサプライ㈱ オリジナル車いす『ライナー30』【移動機器】

価格：お問い合わせください

～個別対応とフレーム剛性にこだわり開発しました～

座幅 4 種、前車輪 3 種、後車輪 4 種を自由に組み合わせることができ、利用者の体格や目的によりお選びいただけます。

- アームサポート：はね上げ・脱着・高さ／前後調整
- フットサポート：スイングイン&アウト・脱着・（エレベーター熱あり）
- 後輪車軸：上下・前後調整 ●背張り調整バックサポート

㈱メトス ステップパルサ【リハビリ・介護予防機器】

価格：お問い合わせください

～乗っているだけでトレーニングできる！～

乗っているだけでトレーニングのできる受動型トレーニング機器です。

従来の運動機器に比べ低い運動負荷で歩行機能の維持・改善が期待でき、高齢者でも無理せず筋力アップ。歩く・足を上げる・しゃがむ等の動作の向上が期待でき、自立した入浴を目指します。

矢崎化工㈱ トイレ用たちあっぷⅡ CKJ-02 【トイレ・おむつ用品】

価格：82,944 円

～簡単にトイレに設置できる、「トイレ用たちあっぷ」です～

「トイレ用たちあっぷⅡ」は、多様な便器に簡単に取付け可能です。また、利用される方の体に合わせてアームレストの高さ・横幅を調整できます。

新たに、「便器を挟み込む固定」と「側面へ突っ張る固定」の 2 つの方法で固定できる、CKJ-02 タイプも販売開始しました。

*上記の製品は、H.C.R.2016 福祉機器ガイドブックにお申込みいただいた新製品のなかから、掲載内容が確定したものを順次社名アイウエオ順で紹介したものです。特段の選考によるものではありません。

※注 1：内容や日程は予告なく変更する可能性がありますので、ご来場の際は最新情報をご確認ください。

※注 2：各プログラムへの最新のご参加内容については、H.C.R. Web サイト(www.hcr.or.jp)で順次ご案内します。

H.C.R. 2016 事務局

(一財)保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F

TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 <http://www.hcr.or.jp>